札幌市市民活動サポートセンター運営協議会
令和４年度 第 1 回
＜議事録概要＞

１ 日 時

令和４年８月 31 日（水）18：00～19：30

２ 会 場
札幌エルプラザ公共 4 施設 2 階 会議室３・４

３ 出席者
（１）委　員：今野 佑一郎 委員（NPO のための弁護士ネットワーク）
*繁富　奈津子 委員（一般社団法人 North-Woman）
*長江　　孝　　委員（NPO 法人こども共育サポートセンター）＊
*新納　美美　委員（社会的健康と地域づくりを支える研究会）＊
松田　剛史　委員（藤女子大学 人間生活学部）
水谷 あゆみ 委員（NPO 法人 ezorock）
*岩崎　謙司　委員（一般社団法人北海道健康医療フロンティア）※公募委員
*大島　真理　委員（札幌市市民文化局市民自治推進室市民活動促進担当課）

（２）札幌市：市民文化局市民自治推進室市民活動促進担当課長

（３）事務局：（公財）さっぽろ青少年女性活動協会
下川原　清貴（札幌エルプラザ公共４施設館長）
斉藤　美紀　（札幌エルプラザ公共４施設市民活動担当課長）
川村　　悟　　（札幌市市民活動サポートセンター）
柴田　由香　（札幌市市民活動サポートセンター）
山下　千沙良（札幌市市民活動サポートセンター）
國行　彩斗　（札幌市市民活動サポートセンター）

４ 議事
(1)はじめに
(2)運営および施設利用状況について（令和３年度報告）
(3)令和４年度事業計画について
(4) その他　意見交換

5　議事概要

・今回から新たに５名に委員として加わっていただいた。

・コロナ禍での市民活動の在り方、サポートセンターにおいてもコロナ禍での学び生かすも思うような活動につながっていない実態がある。

・第 4 期指定管理最終年度となり、第 5 期に向けて提案書を作成し選定されることをめざしている。

・札幌市の施策や市民活動における全市的な動向、運営協議会でのご意見を鑑み、反映させた事業計画で運営を進めているところである。

＜令和３年度報告と令和４年度の運営＞

・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より引き続きソーシャルディスタンスの確保やマスク着用、消毒、換気に留意し運営してきた。

・令和元年 12 月より新型コロナウイルスの影響を受けはじめ、この２年間は休館と再開の繰り返しとなった。令和３年５月、６月、７月、８月は、休館（事務ブースのみ利用可能）により利用数は大きく減少し、利用者が戻り始めてはいるものの、当初毎月 5,000 人程度の利用者数から 3,000 人程度の推移を繰り返している。

・団体の解散、活動停止、集合せずオンライン等による活動でセンターへ来る機会が激減している。

・新規登録も増え始め、利用促進に向けたアプローチをしていくことと、利用はしていなくても活動はしている団体に向けた新たなセンターの利用方法を改めて周知してくことを検討していく。

・次世代層に向け、ＮＰＯの理解を深めてもらうことや NPO という選択肢など、社会にそういった機能を持った組織がたくさんいることを知ってもらう「NPO インターンシップ」に力を入れている。

・配信型の講演会や法人設立に関する講座等、センターの直接来なくても伝えることができる事業を行ったことより、地方の講師の方に登壇いただいたり、市外の方からの問合せがあったりなど一定の効果があった。

・

6　ご意見、ご感想、アドバイス等

・インターンシップはなかなか学生が集まらないということが、以前にあったという気がしたが、今年はたくさん集まってよかったなと思った。関係される学生団体さんや教員の方々にいろいろ情報提供をされたと思うが、学生が後輩たちに語り継いでいって、そこでまた自主的に学生たちがそこに関わるようなプロセスができるといいなと感じた。

・活動自体、ウェブとリアルを併用しながらいろいろ試みている中で、既にお話が出て

いるように、インターンシップ等は割と参加率が上がっているような気がしているが、それは広報の仕方なのか、何か工夫している点があるかということと併せて、現場に参加する人とか、ウェブで参加する人とか、参加者の層で差があったりするのか。例えば、学生さんは割とウェブのほうが参加しやすいとか、年齢層の上のほうの人は結構リアルで来ているのか、逆にそこが来にくくてウェブにも参加しにくいのか、そういう見え方をセンターのほうで把握されているかどうかというところは、今後を考える上でも必要かと思った。

・どうやって活動の質は下げないでＩＴ化できるか、そういうものが苦手な方たちをどう取り込んで、新しい層を取り込めるのか、そんなことを相談できる場所があるといいと思う。

・地域は閉じこもりや巣籠もりの状態があって、それは若い世代と高齢者の関係の断絶が大きいと考えている。それは社会的にも大きな課題であるのだけれども、そこに焦点を当てて交流するような機会ができれば、非常に活性化するのではないかと感じた。

以上